

7	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16108001	細胞内寄生植物病原細菌のポストゲノミクス ー動植物マルチパソジェンの分子解剖が拓く 病原・宿主因子のニューパラダイムー	難波 成任 (東京大学・大学院農 学生命科学研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>動物・植物間を水平および垂直移動し植物に病気を起こす細胞内寄生細菌であるファイトプラズマのゲノム解析に関して独自の技術を確立し全ゲノムを世界に先駆けて解読した功績は大きい。さらに、ファイトプラズマの膜タンパク質が昆虫宿主のマイクロフィラメントと相互に作用し、これがファイトプラズマの昆虫宿主決定に重要な役割を果たしていることを発見したことも高く評価できる。今後、病原性因子とこれに対応する植物側因子の解析を中心に計画されており、基礎的、応用的な発展が期待される。</p> <p>なお、研究状況報告書に記載する研究成果の発表状況については、この研究費による成果のみに限られたい。</p>				
8	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	16108002	気候変化と人間活動に応答する海洋生態系の 歴史的変遷と将来予測	岸 道郎 (北海道大学・大学院 水産科学研究院・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、日本近海の海洋生態系を対象に、(1) ボトムアップコントロール、(2) トップダウンコントロール、(3) 20世紀以降における海洋生態系の歴史的変遷の評価、(4) 生態系モデルの構築による海洋生態系の多様性保全と生物資源の最適な資源利用方策の策定の、4本柱より構成されている。(1)、(2)に関わる個別種の生態、動態についての研究は、ほぼ順調に進捗しており、(3)への個別データの受け渡しが可能になりつつある。(4)についても適用モデルの目処がたっており、試算の結果も良好であることから、順調に進捗していると判断される。今後、(1)、(2)で得られた基礎資料をモデルに取り込み、複数モデル間の連携を図ることになるが、研究課題の達成に向けて研究者間のさらなる連携が望まれる。</p>				